

めだかの学校伝言板

平成 28 年 5 月 1 日
第 92 号
学舎：周智郡森町一宮
「一宮総合センター」
事務局：静岡県磐田市
家田 529-20
TEL: 0539-62-6691

校長訓話

第九十二回 校長 奥宮 教生

自分の歴史を活かす

めだかの学校に入学してから十五年近くになる。その間、講師を務めたのは代行で一回、指名を受けて一回である。が、校長は初めてのことに。名前を呼ばれた時はビックリ仰天、まさに「驚いたって間に合うか」(頭山満)である。

どうしてそんなにビックリしたのか？「私への校長指名はない」と九十九パーセント思っていたからだ。何故ならば、一つは「欠席が多い」ので当てにならないのだ。二つは、野球ならピンチヒッター、又はリリーフ、サッカーならスーパースブと勝手に思っていたからだった。

しかしながら、指名を受けた以上、全力投球が大事と心得て対処させて頂く。さて、かの有名なナポレオンは「我が辞書に不可能はない」と言ったそう。それ

と同等など決してないが、私もこれまでに二つの言葉と考え方を捨てたのだ。

一つは三十歳前後、もう一つは四十歳頃である。九十二回(六月三日)の校長訓話では、その内の一つを解り易く説明したいと思うので、この紙面には書かない。なぜ？

人生では、「より多くの時間、労力、お金を自己投資した人間だけが、より質の高いものを得る」(奥宮語録551)と考えているからである。

郵送されてくるこの「めだかの学校便り」にも、諸々の情報が満載されている。読み分ければ貴重な情宝になるのであるが、さらに、当日会場へ足を運んでこそ得られる情宝があるのだ。又、そうあるように整えておく事が大切だと思ふ。

二十三期の通年テーマは「足元の歴史に学ぶ」である。八十九回は「日本の足元・古事記から」、九十回は「開校九十回を語る」、九十一回は「地域の歴史をたずねる」であった。今回は、「自分の足もと、歴史

を考える」を主題として、出席者に問いかけてみたいものがある。

そのヒントは、

「熟年ということばは大嫌いだ、熟したあとは落ちるだけだぜ

老後ってのはいいねえ

何歳になっても後がある」

(奥宮語録494)

このことばの奥にある深い意味、考え方そして真理を、私独特の解釈で展開してみたい。ほとんどの人が問われても答えられない内容だから、聞けば「目から鱗」「膝を打つ」こと間違いなしでしょう。

どうぞ、校長先生ならぬ、好調宣誓にお任せ下さい(笑)



めだかの学校伝言板

——第92回めだかの学校を開校するので出席しなさい。

校長／奥宮教生

教頭／山中幸子

用務員／村田徳治

給食係／大久保陽・伊藤英雄・鈴木武史・尾上美智子

水野忠義・石野省三・中村やす代・牧野久子

大谷香代子・渡辺三ツ子(チーフ)

※お手伝いできる人はぜひ早めにお出かけを！

<学舎>静岡県周智郡森町一宮「一宮総合センター」

TEL: 0538-89-7730(開校日のみ)

開校日／平成28年6月3日(金)6:20PMより——

受付／大場敬子・大橋町代・鈴木康太・斉藤昭(後見人)

23期通年テーマ：『足元の歴史に学ぶ』

今回のテーマ：「自分の足もと、歴史を考える」

<時間割>

●1時間目 美術 上嶋裕志 先生

「三縁何進って何？」

●2時間目 社会 藤田久枝 先生

「縁から演へ」

●3時間目 歴史 間瀬亮太 先生

「めだかの便りが教えてくれるもの」

●給食の時間～武ちゃん農園のジャガ芋三昧～

9:30 閉校

めだかたち

■美味しいお米には歴史がある

私をはじめ久留女木の棚田に出会ったのは、一九九五年ですから、今から二十一年前。そのころは今の倍以上の面積でお米が作られていましたので、それは雄大な風景でした。

しかし、過疎化や高齢化の波を受け、今は2haほどに作付けは減少してしまいましたが、でもまだ2haも残っているというところが、実は奇跡的なものかもしれません。久留女木の棚田には、毎年二月になると稲の神が来訪し「万歳楽」という神事が行われます。棚田の中には、その稲の神に捧げるお米だけを作っている御神田もあります。

それから、来年は、井伊直虎を主人公にした大河ドラマの放送が決定しています。が、調べてみると、久留女木の棚田は、井伊氏の食糧庫として、食糧増産のための隠し田として、先人たちの血と汗で築かれてきたことが分かったのです。

こういった独特の歴史や文化を後世につなげようと活動しているのが「久留女木竜宮小僧の会」です。当会は、外からお米を作りに来てくれる人を取りまとめたり、地元農家との調整をしたり、美味しいお米づくりの指導をしたりしています。

自分の食べるものだから自分で作りたいという方を対象に、一年間の農作業をレクチャーする「久留女木棚田塾」も始めました。今年度は四人と一グループが参加予定です。またいつか、めだかの学校で、彼ら

の奮闘する姿をお伝えできたらうれしく思います！
(鈴木一記メダカ)

■マルカワの蔵、又(さ)水(すい)

天竜区二俣で「マルカワの蔵又水」をスタートさせて早2年8ヶ月が経過。お陰様で市内外から沢山の方にこ来蔵いただいています。

130余年の歴史ある古い酒屋は木造3階建てで、奥には四重の扉の土蔵があります。ここで私共夫婦は、地域活性化を目指し「NPO法人元氣里山」のメンバーとして、地場物産の販売、月替わりで様々なジャンルの展示・販売をおこなっています。28年度4月のテーマは「紙」でした。地元で伝わる伝統の阿多古和紙の他、切り絵や一開張りの作品が並びました。5月は「ファミリー」がテーマで、家族単位で参加いただきます。めだか生の田村夫妻の木工品と布小物も楽しみます。6月のテーマは「こだわり」、愉快な暮らしに焦点をあてます。フリーマーケットもありますよ。

7月は木彫と夏物衣類を予定しています。「みんな参加型」のギャラリーとして、自由な発想のもとに、共に生き甲斐を感じることが出来る場でありたいと願っています。皆さん、是非足をお運びください。
(本島慎一郎、真弓メダカ)

■地域で活躍する「タレント」ともに、文化活動の場をつくっていき

遠州WebTVという、毎月1回のインターネット放送が、三月で丸三年になり、これまでに七〇〇人以上の方に出演いただきました。バラさんはじめ、たくさんメダカ生にご協力いただき、感謝しています。まちづくり&アートプロジェクトというキーワードで、この地域でまちづくりの

活動をされている人たちの出会いとコミュニケーションの場をつくりたい、との思いで始めたWebTVですが、毎月、一つの番組を作ってきたことで、人と人が結びつきながら、協力して行う、現実的な、「制作力」が問われるようになってきたと感じています。

私たちがWebTVを続けて行っていくことが、単に情報発信を行うということではなく、場合によってはこのようなイベントを企画したりして、パブリックなメディアとして地域の中で機能する装置となればよいと思っています。十数人のスタッフ・メンバーとともに、文化的な活動の場をつくり、地域で活躍する人たちが、「タレント」としての能力を発揮できる場と機会ができていけばよい、と思っています。今後とも、ご支援よろしくお願ひします。
(村田徳治メダカ)

■14回全国まちづくり交流会 in 松阪

平成28年6月3日(金)・4日(土)・5日(日)の3日間、三重県松阪市飯南町・飯高町で開催される。めだかの学校からは、池谷俊裕、中村明男、奥宮教生、榎原幸雄、山中幸子、今村純子、村松達雄、水島加寿代の8名と、市原実(千葉)、菅原欽一(東京)、杉谷知也(三重)らが参加する。静岡県内のめだか生は3日にめだかの学校があるので、4日(土)から出席。大いに盛り上げてきます。

松阪市には、松阪もめんの染めと織りの創作活動をしている坂梨律子メダカがいます。お会いできるといいですね。

■第10回春野人めぐり

春野のやまあい、じっくり育った新茶を楽しむ「里山ゆるり旅」が5月28日(土)

29日(日)の2日間 10時~16時まで、茶摘みと里山体験など、21ヶ所の「人めぐり」が開かれる。めだか生では、尾上美智子メダカのオーブンガーデンとパン工房オルセツトが日曜日ですが開いています。ぜひお出かけを！。全体の問い合わせは春野町観光協会053・989・0182へ。尾上美智子メダカオーブンガーデンは053・986・0133へ。

■2016磐田国分寺まつり

磐田国分寺まつりが、6月11日(土)磐田市国府台の国分寺跡で開催されます。平安時代の装いで、JR磐田駅北口広場から国分寺跡の会場まで行列しながら歩きます。会場では村松達雄メダカが関わりのある天宮神社の古式舞楽も演じられます。実行委員会には原邦司メダカがいます。そのほか何人かのメダカ生が関わっています。問い合わせは、原邦司メダカ053・836・5358へ。

■旧浅羽の畑に助っ人募集！6月18日(土)草刈隊・19日(日)収穫隊

木船光章さん(昭和33年磐田市生)といえ、古希を過ぎてから新規就農。海岸近くの耕作放棄地(袋井市湊)を、たった一人すべて手作業で雑草を刈り取り、密生した竹藪の根を払い、松の木を切り倒し、10年かけて1500坪の畑に蘇らせた人物です。雑誌「かがり火」にも紹介され、木船さんの講演会を聞いためだか生も多いことと思います。今年で米寿の木船さんですが、昨身体調を崩してしまい、現在、畑に植えられたジャンボニンニク、らっきょう、ジャガイモがそのままになってしまっているとのこと。そこで、6月18日(土)に「草刈隊(鈴木正士めだか仲間)」、19日

(日)「収穫隊(菅原欽一めだか仲間)」として出勤したいと思えます。皆さま、「ご多忙のこととは思いますが、お誘い合わせてご参集いただけませんか?」詳細は追ってご連絡しますので、名乗りを上げていただけたら幸いです。水島メダカ090・3855・7590 (水島メダカ)

「人・ひと・ヒト……だより」

●浜松市の日比野雅彦メダカ。3月1日付けをもって、中日新聞東海本社編集局報道部長から中日新聞名古屋本社編集局放送芸能部に転勤。浜松での経験を活かし、新聞づくりに専心努力する。だって。

●磐田市の榊原幸雄メダカ。6月をもって四年間勤めた磐田市観光協会事務局長を退任。「めだかの学校と二足のわらじ」。いやいや「めだかの学校」の人脈があればこそできたこと、と。その後は?「家の中でじっとしていることができる人ではないから」と妻の明美さん。ハイ。

●愛知県豊田市足助町の藤原さんご夫妻が、磐田市観光協会へ寄ってくれました。藤原ご夫妻とは、森町で開催した「めだかの学校20周年」&第11回全国まちづくり交流会や、昨年北海道蘭越町で開催された全国まちづくり交流会でも「一緒し、また遊んで浜松市引佐町の奥山で開催した、めだかの学校15周年記念『大学院』」にも足助町の皆さんと一緒に参加してくれました。

●「急ぎ過ぎだよ」人類はと、ゆるやかなネットワークを目指す。「雑報・縄文」を編集・発行する鈴木厚正さんから「雑報・縄文」を送っていただきました。A4二十四頁の手書き。「ITより遅いエ」と、その活動や中味も凄い。「20数年前から『猫の手くらぶ』として手弁当で草刈りや

景観保全に協力していただいている鈴木正士メダカが感謝状。鈴木厚正さんたちの活動を知らたい方は、「雑報・縄文」を購読するといいですよ。問い合わせは、発行者の鈴木厚正さん TEL043・291・2917へ。お留守が多いのでFAXの方がいいと思えます。

●袋井市の山中幸子メダカ。岐阜県の「ちこり村」を訪ねた時、店内のコーナーに菅原欽一氏、かがり火、購読を!の案内。「輸入チコリ」を国産ちこり芋の生産に成功した「ちこり村」の代表取締役中田智洋氏のコメント。ハーブの仲間として育てているだけの私に、ちこりの楽しみ方の新しい発見でした。メダカのネットの広いことを改めて感じた旅でした。だって。

●磐田市の松島季美代メダカ。好奇心いっぱい森町の保育園の施設長。沖繩エイサー、フラダンス、御神木巡り、神社お寺巡り、紙芝居師、劇団役者、古事記語り、絵本よみ語りetc.とにかく声かけて、時間が許す限り跳んでいきます。だって。

●森町の榊原淑友メダカ。議員をやめ、四月の蔵履も終わり、今はお茶とお米と草刈と大忙し。もうすぐ二人目のお孫さんも。ご夫婦とも元気ですよ。

●お茶といえ、浜松市引佐町の鈴木計芳メダカ。生産と加工と販売と、まさに大車輪。竜ヶ岩洞の洞窟にお茶を貯蔵して熟成茶もやっている。

●磐田市大平の鈴木正士メダカは二十二年間農業なし、化学肥料なし、九年間農業なしのこだわり茶を作っている。地元財産区の議員もやっており、段取りもとれず大変、と。

●島田市の池谷俊裕メダカ。喜瀬川はつ枝めだかもしかり。今年はお茶の成育も良く、マッタなしの大忙し。
●浜松市の浜口弘睦元メダカ。合成樹脂の

ウレタン製の自動車部品などを加工する会社の社長。めだかの学校で先生をやった時、薬品を合成してスポンジを作ってみせた。「穴があいても沈まない救助用ボートはないか」という消防隊員の言葉で、災害救助用の沈まないボートを二年がかりで開発した、と。四月二十六日付中日新聞朝刊「おはよう」欄。めだかの学校に関わりのあった人が活躍している姿を知るとは嬉しいですね。

●森町の太田康雄メダカ。二月十四日の町長選で当選。町長に。森町のカジ取りを頑張る、と。村松達雄メダカとは同級生で、親友とか、森町には多くのメダカ生がいていいね。

●三ヶ日町の夏目厚司元メダカの最近の動向を紹介。猪鼻湖の浄化推進から始まって、マウンテンバイクのコースを作り世界大会を目論み、ボートのカッターチームを作り大会を!高鳴るようなこと実践しようとしている。今回は「三ヶ日青年の家」の土地に畑を作り、三ヶ日中学校の三年生に「さつまいも」を栽培してもらい全校生徒に食べさせ「食」への関心の高揚を図ろうと!それに呼び出されたのは、伊藤英雄メダカと石野省三メダカだよ。とにかくやるしかない、畑づくりに取り掛かることに!夏目元メダカは酒店とレストランを経営しながら「わらの会」として活動中。

●引佐町の石野メダカは中途半端な自然しかない地元を、「交流の場」にしようとのほど「鎮玉・川のみち」と題して「交流マップ」を作成した。何もしなかったら何も起こらない地域が、今注目をされつつあるのをご存知かな?ホームページ、フェイスブック「ひびくしい鎮玉」をそっと覗いてみてごらん。だって。
XXXX XXXX

今回は紙面の都合でこれまで。

「めだか春秋」

「めだかの学校」開校25年・開講100回が視野に入ってきました!
おもしろ人立「めだかの学校」は、平成5年9月3日に引佐町奥山(現浜松市北区引佐町)の、いなさ自然休養村「つみくさ」を学舎に開校しました。

学舎は、引佐町観音山「みどりの郷キャンプ場」、現在の「森町一宮総合センター」と3回替わりました。
開校25年・開講100回には、平成28年9月3日の93回、同年12月2日の94回、29年3月3日の95回、同年6月2日の96回、25期第1回の97回、12月で98回、30年3月で99回。開校100回は平成30年6月です。あと2年。「継続は力なり」と言われますが、よくぞここまで!そんな思いが募ってきます。

92号までの「めだかの学校便り」をひもどくと、「あっけからんとて楽天的で挑戦的心を持つこと、もう1人の自分を見つけて、もう1人のあなた発掘、誰に言うでもなく、ありがとうと言えるようになる」をコンセプトに好奇心と遊び心と挑戦心が「めだかの学校」の建学の精神(こころ)です。「めだかの学校」がここまで長く続けてこられたのは、その裏に流れているだろう、向こう三軒両隣の「なにか」意識に他ならないような気がします。

あと2年、みんなで四半世紀開校25年・開講100回記念事業をやります。実行委員会を立ち上げましょう。「協力くださる生徒を募集します。希望者は事務局榊原幸雄メダカまでご連絡を。お待ちしています。

言いだしっぺ 榊原幸雄

トピックス

■鈴木正士メダカ宅「我が家のお茶摘み&コンサート」

4月30日(土)旧豊岡村大平の鈴木正士メダカ宅「大平山荘」を会場に、「我が家のお茶摘み&コンサート」が行われました。この催しものも早いもので20年目、すっかり春の風物詩になりました。AM9:00地元はじめ県外からも集まった大勢の仲間たち、近くの山でワイワイガヤガヤ賑やか&和やかに山菜取りやタケノコ掘り、お茶摘みなどを楽しみました。大平山荘へ戻ってみんなで協力して食事の支度、そば打ちは松本芳廣メダカ、中村明男メダカの出番、お餅つきは鈴木眞弓メダカの手返しで、伊藤英雄メダカ、尾上美智子メダカ他たくさんメダカたちが大活躍、掘りたてタケノコの丸焼きなども、野趣たっぷりのランチをおいしくいただきました。午後からはおなじみ劉揚さんの「二胡」のコンサート、お天気にも恵まれ、木々に囲まれた自然の中で風と鳥のさえずり、川のせせらぎをBGMに美しい二胡の調べを楽しみました。(鈴木武史メダカ)

■事務局だより

五月の風が新緑の香りをのせて...いいですねえ。今年はお茶の出来が良い、とのこと。美味しいお茶が飲めますね。それにしても熊本・大分地方の人達は地震で大変な思いをなさっています。他人事ではないですね。いつ私達にも...です。自分でできる応援をしましょう。めだかの学校として、静岡新聞に義援金をお願いしました。

さて、第91回めだかの学校は、平成28年3月4日、校長大島たまよ、教頭大谷洋介、用務員戸田喜久雄。大島校長「着物は日本の文化」と、着物姿も堂に入っている。綺麗でした。テーマは《地域の歴史を訪ねて》。1時間目、鈴木武史先生は横須賀の街並み景観や「ちっちゃな文化展」の活動や祭り文化などを話す。2時間目は村松達雄先生、幕末から明治にかけて遠州地方では多くの偉人が活躍。森町出身の鈴木藤三郎氏の功績や、自ら舞う天宮神社の古式舞踊などを語る。3時間目は大島たまよ先生、歴史と言われるだけあって、時代に活躍した女性たちを披露する。三者三様、それだけの知識があるだけに納得した気分になった。給食は初ものだけのこの飯。どつきりびつくりの私語飲食全て禁止の次期3役指名。「校長奥宮教生。教頭山中幸子。用務員村田徳治。奥宮校長「いやア、びつくり」(※その時のことは「92回めだかの学校便りの校長訓話で」。山中教頭は元バスガイド。「校長を支えます」と村田用務員。すかさず奥宮校長「支えてくれないでいい!」だって。まさに異色の三役。おもしろくなりそうです。(笑)。給食当番の指名。当番が固定化しつつある。給



食は「めだかの学校」の両輪。積極的に参加を!。あれ、下駄箱の一番下に置いた私(バラメダカ)の靴がない。最後に一足残っている靴。足の寸法は同じ。誰かが間違えたよう。気がついた方は事務局バラメダカまで連絡を。第92回めだかの学校の職員会議を、4月14日(木)19時から学舎で開く。「おッ、豪華な弁当!」。いつものお茶つき600円が弁当だけで700円。いやア、理由があつたんだが凄くいい。食べ物がいいと、会話も弾む。奥宮校長、テーマや内容まで考えて来る。指名された時はびつくりしたが、「せつこうちょう!」だって。黒板に「歳を取る」「齢を重ねる」その違いは?を説明。ということから「取る」「重ねる」裏にあるものは?をテーマにする。通年テーマが「足元の歴史に学ぶ」ことから、身近な歴史「自分史」を授業に反映させて、1時間目、美術「私と三縁何進って何?」上嶋裕志先生。2時間目、社会「縁から演へ?」藤田久枝先生。3時間目、歴史「めだかの学校だよりが教えてくれるもの」間瀬亮太先生。数日後、奥宮校長より、校長訓話の原稿に手紙が添えられ、「第92回のテーマを『自分の足元、歴史を考える』に変更したらの提案があり、始めに決めたテーマが分かりにくかったこともあり、了承しました。」

■第24期の受け付けをはじめます

第23期は6月3日(金)の第92回めだかの学校の授業で実質終わりとなります。第24期は、平成28年9月2日(金)から29年8月31日までです。継続希望の生徒は、同封の申込書に入学金10000円を添えて継続手続きをお願いします。第92回

の開校日より受け付けます。登校できなかった生徒は28年8月31日までに事務局あてにお送りください。手続きがなされない生徒は名簿からはずされ自主退学となります。ご注意ください。新しく入校される方がいましたら事務局までご連絡ください。申込書と資料送ります。

■今回もめだかの学校だより遅れてごめんなさい

いつもお手伝い頂いています鈴木武史メダカ、伊藤英雄メダカ、石野省三メダカ、本島慎一郎メダカ、服部守孝メダカ、水島加寿代メダカ、間瀬亮太メダカ、発送などのお手伝い榊原明美さん、ありがとうございます!

■めだかの学校だよりの原稿を!

今回の発行は、8月1日予定。締切りは、7月20日。みなさんの日頃の活動、イベントの開催など送ってください。郵便かFAXで。メールの方は、
《mabuchi-trd@yr.tnc.ne.jp》
間瀬亮太090・50009・0986です。
(メールの方は割付の関係もあるので「報を」)

■めだかの学校の事務局

T438・0105 静岡県磐田市家田5番地20 榊原幸雄方 TEL 0539・62・6691 (FAX同じ)
※学舎「一宮総合センター」周智郡森町一宮3150。電話 0538・89・7730 開校日の午後4時以降のみ使用可。携帯 080・1612・9130

